

2019年度 松蔭中学校・高等学校 自己評価報告

松蔭中学校・高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2019年度学校自己評価」を報告するものです。

①自己評価は次の13 領域（部署）で実施した。

・各学年団（中学1 年～高校3 年の6 学年）・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）

②評価法

・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。

・年度末に、実践内容について評価した。

・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。

③改善・向上策・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

学年

学校自己評価中学1年 （ A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった ）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標を「あなたの心を諭しの言葉に耳を知識の言葉に傾けよ」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。	1. 学年集会・学年だより・各クラスでのHR等で取り上げた	B	*場面によってしっかりと取り組める時もあるが、常に意識をするレベルにはない。継続して粘り強く声掛けをする。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 携帯の校内使用の禁止、服装・頭髪を端正にということを重視。教師間で申し合わせた。 2. 生活アンケートを学期に2回実施し、面談、観察、調査の3つの面から生徒状況の把握に努めた。	A	*生活のルールは守れる場面も多いが、放課後にルーズになりがち。さらに徹底させていく。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. 「学習のとりくみ」を作成、配布。 2. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活の予定や見通しを手帳に整理する習慣をつける。 3. 各教科の課題の優秀者や実力考査と10段階の成績に伸びが見られた生徒を表彰。 4. 各考査後に成績不振の生徒に対して補習を実施。また、希望者対象の学習講座を実施。 5. 進路の意識付けを目的とした希望者の校外学習を実施。 6. 全員受験の実力テストを学期ごと、希望者による実力テストを2学期に実施。 7. 英検3級～準2級受験者対象に作文と面接指導を実施。	A	*手帳の取り組みは個人によって差がある。共通して取り組む部分を増やし、全体としてレベルを上げていきたい。 *補い生徒の補習は5教科で授業を実施したが、している方も受けている方も効果が実感できていない。形を変える必要がある。 *休暇中の講座への参加者は多いので、参加者のモチベーションが落ちないように内容を充実させていく。
	総合学習	中学1年生では以下の項目に取り組んだ。 1. マナー 2. 心のマナー	1. 礼儀作法やマナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. コミュニケーション上の問題が多い時期であることを念頭に、他者を理解しつつ、上手に自己主張を行えるようにする。	1. 礼儀作用について小笠原流礼法の講師の先生から実践的に学ぶとともに、公共の場や学校生活でのマナーやその大切さを学習する。 2. スクールカウンセラーの梅野先生による「心の授業」を各学期に実施。レジリエンスや人間関係の緊張を緩和する方法について学ぶ。	B	*うまく礼法の意義を理解させるには幼い生徒が多いように感じる。内容はよいと思われるので別の形で学年を代え取り組んでもよい。 *梅野先生による講座は生徒に分かりやすく、実際に役立つ内容であった。日常的な指導と結び付ける意識を教員が持つ必要がある。
	行事	1. 夏のキャンプ 2. 秋の校外学習 3. 芸術鑑賞	1. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。 2. 地域の産業、歴史に触れる 3. 臨場感ある芸術鑑賞によって感性を磨く。	1. 集団での過ごし方を意識する。卒業生のキャンプリーダーのもと、友人と協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうようにする。 2. 秋の校外学習では丹波篠山を探訪。立杭焼き体験と史跡訪問を行う。 3. 1学期には「ピッコロわくわくステージ」に参加。3学期に「わくわくオーケストラ」に参加	A	*夏のキャンプではリーダーの指導のもと協力して集団生活を送ることを学んだ。普段の学校生活とつなげていく工夫は必要。 *校外学習では生徒たちは意欲的に取り組んだ。教科指導につながるかどうかにかかわらず、様々な体験をする機会として大事にする。 *芸術鑑賞は個人で触れることが少ないので、学年として機会を確保していきたい。

学校自己評価中学2年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切に ・授業を大切に 	1. 目標は教室と廊下に掲示。学年集会や学年だよりで、できるだけ話題としてとりあげた。	B	言葉は覚えていても実現できていたかどうか。もう少し、目標を意識しての言葉がけをすべきであったかもしれない。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年度が始まる前の会議で、生徒指導へのスタンスを確認。またその具体化としてガイドラインを決定。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行った。 2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとった。 3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行った。月に1回の学年会議(生徒情報)を行い、日々の生活面の情報交換を実施した。 	B	教師間での情報共有はできていた。指導事項について、協力体制を強化していく必要がある。
	学習指導	中学2年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・中学2年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。 ・自主的な学習ができるように促していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝礼前の5分を手帳タイムとし、自分のスケジュールの把握につとめ、計画的に学校生活を送れるよう工夫させた。教員はこまめに声をかけ励ますようにした。 2. 定期考査30点未満の生徒に、何らかの補いを行い、注意喚起をした。 3. 全員受験、希望者受験の実力考査を、学期に1回ずつ実施した。 4. 長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応した。 5. 自学自習の習慣をつけさせる目的で自習ノートの提出を積極的に呼びかけ、提出回数に応じて賞品を渡した。 6. 英語アドバンス塾の他、週に一度英語教室や英語を使ったイベント、定期的な数学教室、学期に一度の理科実験教室を実施。 ただし、3学期希望者実力、理科実験については休校のため実施できず。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳タイムは、学期が進むにつれて、適当に扱う生徒が見られるようになった。手帳を整理する試み自体は、生徒が自分のスケジュールを自分で把握することに役立つと思われる。上手に活用できている生徒もいるが、うまく活用しきれない生徒も多い。その生徒たちが、どうすれば手帳を上手に使えるようになるか、指導に工夫が必要である。 ・希望者実力に関しては、参加生徒が増えるような指導が必要である。(3学期やや改善が見られたが休校の関係で実施されず。)
	総合学習	いのちの学習	「いのち」という、重いテーマではあるが、中学2年生は2年生なりに自分の考えをすすめる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1学期は「いのちを授かって」をテーマに、自分自身の生い立ちや、これまで人生を振り返ることにより、「いのち」について考えさせた。またその出発点として、「あかちゃん先生、ようこそ」を実施し、生身の赤ちゃんとそのお母さんを通して、「いのち」を感じながら、学びの時を持った。 2. 2学期は「いのちに差はあるのか」をテーマに、望まない妊娠、障がいを持つこと、授かれなかった命などについて知ることを通じて、生きることの意味について考えさせた。ダウン症の母子を迎えて、直にその子供や母親の声を聞き、体温を感じる機会も持ち、生徒は多くのことを考えることができた。 3. 3学期は「どのように生きるか」をサブテーマに、生徒自身がこれからどのように生きていくかを考えていった。また神戸市立看護大の学生を中心としたピアカウンセリングを実施。学生の助言を得ながら、新しい視点で「生き方」「進路」等を考えた。 	A	<p>中学2年生にとっては重く、シリアスな問題も含むが、考えることに重きを置きながら指導していった。「いのちに差はあるのか」を考えていくことで、自分も他者もともに大切な命であることへの気付きとなったか。</p> <p>難しい問いであるが、どのように生徒に提示するかを慎重に考えながら、来年の「戦争・平和」へとつなげたい。</p>
	学年行事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海洋キャンプ 2. 秋の校外学習 3. 聖歌コンクール 	<p>生徒の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協調性を育て、海洋スポーツの楽しさ、自然のすばらしさを知る。 2. 震災の被害を学ぶ。淡路島の自然を満喫する。 3. クラスで協力して聖歌を合唱する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3種類の海洋スポーツに親しみ、生活班ごとの食事や清掃の共同作業に取り組んだ。 2. 野島断層震災記念館を訪問。阪神大震災の揺れを体験し、実際に断層を観察した。淡路ファームパークで、自然の中でバーベキューを楽しみ、バターづくりの実習をした。 3. 創意工夫も採点対象とする条件のもとで自由曲2曲を合唱した。 	A	<p>各行事とも欠席者も少なく、熱心に活発に活動した。</p> <p>スケジュールの関係で春の遠足が計画できなかったことは残念だった。</p>

学校自己評価中学3年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学3年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	<ul style="list-style-type: none"> 人はそれぞれの歌を持つ 学校は間違ふところ ばらけている、束ねられるな 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標は教室と廊下に掲示。学年集会や学年だよりで、できるだけ話題としてとりあげた。“友達幻想”にとらわれず、友人関係は大切するが、孤独を恐れぬ勇気を持ちながら、自分を大切にできることを促した。 	B	人間関係のトラブルを多く抱える生徒たち、集団の中での距離の取り方を、どのようにアドバイスするか、教員にとって難しい課題ではあるが、いつもその意識を、学年団でさらに共有できればよかった。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年度が始まる前の会議で、生徒指導へのスタンスを確認。またその具体化としてガイドラインを決定。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の様々な価値観の中から共有できる点を議論。学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行った。 2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとった。 3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間トラブルは色々あったが、迅速な対応を心掛けた。教員が研究日で不在時の対応も綿密に行った。 ・保護者や生徒とのコミュニケーション、信頼関係がどれほど重要か、改めて肝に銘じる必要がある。
	学習指導	中学3年生としての基礎学力の定着と中学3年間の総復習・総まとめの実行	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年間で学んだことを復習し、整理する。 ・高校進学を前に、自主的な学習ができるように促していく。 ・「基礎学力判定試験」を有効な刺激となるよう、モチベーションを高め、維持する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝礼前の5分を手帳タイムとし、自分のスケジュールの把握につとめ、計画的に学校生活を送れるよう工夫させた。教員はこまめに声をかけ励ますようにした。 3. 特に手帳を整理し、『テストレコード』をつけさせることで、テストの準備・反省を自律的に行えるよう、生徒を励ました。 4. 定期考査30点未満の生徒に、何らかの補いを行い、注意喚起をした。 4. 各授業の中で、復習の時間を取り入れ、「基礎学力判定試験」につながる学習を実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳を有効活用する生徒が増加した。 ・「基礎学力判定試験」を意識し、ふだんの授業や復習は、教員が想像したよりも行っていたようである。 ・早い時期より、単に「基礎学力判定試験」でいい成績を取るのではなく、中学の総まとめとして取り組むよう促してきた。一定の効果は上げたと考える。
	総合学習	「平和」についての学習 生き方≒キャリアの学習	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の「いのち」というテーマを引き継ぎながら、「戦争」「平和」というテーマを考える。 ・長崎修学旅行が、有意義なものとなるよう、原爆や過去の戦争の歴史を学ぶだけにとどまらず、「現代の戦争」についても考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1学期は、中東など今戦争・紛争が起きている地域で活動するジャーナリストを招き、現代の戦争について学んだ。また、神戸で戦争の遺跡を調べ、平和マップを作っている団体のメンバーのお話を聞いた。また自分たちの学校の戦争の歴史を学ぶフィールドワークを実施し、松蔭の歴史も戦争と無縁ではなかったことを知った。 2. 2学期には、1学期に学んだことを心に留めながら、長崎修学旅行で平和学習を実施。碑巡り・原爆資料館・原爆被災者の講演など、丸一日を割き、戦争と平和について考える時間を持った。 3. 修学旅行後、各自の「平和」についての思いをまとめ、冊子化し生徒間での意見の共有も行った。 	A	<p>中学2年時と同様、中学3年生にとっては重く、シリアスな問題も含むが、単に歴史としての戦争だけにとどまらず、今現在起きている戦争や紛争、その犠牲者となる老人や子供について考える時間を持つことができた。戦争が決して遠い場所、遠い過去の問題ではなく、今、そこにある問題としてとらえることにつながればと願いながらの総合学習であった。特に直接体験者の数がどんどん減少する今、歴史から学びつつ、現在の私たちの問題として「戦争・平和」を考えることの困難さを感じた。どのように生徒に問題提起するかは、同時に私たち教員が、この問題をどう考えているか、どのようにかかわっているかを試される問題でもあり、むしろ教員の側にこそ、さらなる緊張感が求められる。</p>
学年行事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修学旅行 2. バザー 3. 有志宿泊学習 (星空観察会 & 鶏頭部解剖) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長崎県を中心に、自然や歴史にふれる。 2. クラスで工夫・協力しながら、おもにゲーム系の売店を担当。バザーに協力する。 3. 普段時間の取れない理科の実験や、星空観察など興味ある事象を深めていく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雲仙普賢岳噴火・溶岩流を、資料館で学んだ。長崎は平和公園・原爆資料館で戦争の歴史を、また市内タクシー研修で、実際に市内を広く見学し、歴史や文化の一端を学んだ。 2. 本格的に出店を経験し、クラスで協力し、さまざまな問題を解決しながら、バザーに参加した。 3. 冬休みに希望者対象の鶏頭部の解剖実習と天体観測を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> * 各行事とも事前学習も含め、熱心に活動した。修学旅行は学習だけが目的ではないが、楽しむ部分と学びの部分のけじめをつけて、充実したものとなった。 * 恒例となった希望者対象のプログラムも、参加者も多く、好評であった。 	

学校自己評価高校1年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校1年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「求めよ さらば与えられん～Ask, and it shall be given to you.～」	1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。	B	さまざまな場面で、もう少し、主旨を理解させ、浸透できるように啓発した方が良かった。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。 教員一丸となって取り組む。	1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。 2. 生徒の様子を常に見守り、生徒としっかりと関わる。特に新入生には適切な配慮を行う。 3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。 4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。 5. 保護者との信頼関係を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。 6. 週に1回の学年会議(生徒情報)で、日々の生活面の情報交換を実施する。	B	毎週の学年会議で、生徒情報の共有ができたことは、非常に良かった。指導事項に対しても、協力して取り組めた。 保護者との協力関係も電話・メールにおいて、ある程度築かれている。
	学習指導	高校1年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	高校1年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。 自主的な学習ができるように促していく。 進路に向けて具体的に組み組めるよう、さまざまな情報を与える。 Classiを活用し、ポートフォリオを作成する。	1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。3年日記を利用し、常に日々のことを記入させる。 2. 全員受験の実力考査を年に3回、スタディーサポートを年2回、GTECを実施する。 3. 英語検定・漢字検定も取り組む。 4. ポートフォリオの活用のため、長期休暇ごとに課題を配信する。 5. 長期休暇中も必要な講習を実施する。 6. 土曜日の3時間目の課題学習では、自学自習の課題冊子を用意する。また、オンライン英会話も定期的実施する。 7. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行う。	B	ポートフォリオに連動させるつもりで、3年日記に取り組んだ。しっかりと活用できている生徒にとっては、非常に良かった。学びのときには、英検・漢検・考査対策にも活用した。 英検対策講座には多くの生徒が受講した。 ポートフォリオへの取り組みをもう少し徹底させるべきだった。
総合探究	キャリア・進路 「持続可能な人生を考える」	1. 進路シミュレーション・進路選択・夢ナビ・オープンキャンパスを通して、進路選択を探る。 2. 旅の計画・人生設計を通して、将来をイメージする。 3. Blue Earth Projectの活動を通して環境問題、持続可能な社会(SDGs)を学習する。	1. 進路実現のために、進路選択・夢ナビの参加・オープンキャンパスへの参加・学問研究の講習などを実施した。 2. 具体的に旅行プランを練ったり、ライフデザインを構築するための、身近な人や憧れの人の人生を調べることで、自分の将来を探った。 3. 学年全体でBlue Earth塾を開催する。また、SDGsの講演会を実施する。 4. Blue Earth Projectへの参加を希望する生徒に募集する。参加希望生徒で、2学期の東京湾大感謝祭や3学期の西宮ガーデンズでのイベント参加を通して、SDGsを学習し、啓発活動を行った。	A	1. 進路選択について、夢ナビやオープンキャンパスへの参加の仕方などの講演を通して、実際に夢ナビ・オープンキャンパスへは意識・興味をもって参加したようだ。 2. 旅の計画・人生設計についても各自しっかりまとめて学習できた。 3. 持続可能な社会というキーワードのもと、SDGsとコラボしたBlue Earth Projectの活動に注目が注がれ、良い体験・経験ができた。	
学年行事	1. 夢ナビの参加 2. 校外学習 3. 冬季野外活動(スキー)実習	1. さまざまな学問領域を学習し、進路選択につなげる。 2. 名画を鑑賞し、豊かな情緒を育む。また、自然のもとで穏やかに過ごす。 3. スキー実習を通して、自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。	1. 夏休み中ではあるが、学年全体で参加する。各自、興味ある講義・ライブを聴き、様々な学問領域の学習をする。 2. 大塚国際美術館にて名画を鑑賞する。後半は分散コースにて、鳴門ウチノ海総合公園にて自然の中で過ごす。 3. 3日間のスキー実習を実施する。レベルごとに班分けをし、それぞれの班でレベルに応じて滑走する。集団生活を通して、協調性・集団行動を学ぶ。	B	1. 興味を持って会場を回った生徒たちばかりであり、良い経験となったようだ。 2. 午前中の雨のため、全員大塚国際美術館で1日過ごした。館内は広く、ゆっくりと過ごせたようだ。 3. 積雪不足で実施が危ぶまれたが、無事に実習を終えた。夜もスキー講習や餅つきで歓迎され、良い経験であった。 インフルエンザ等の季節のため、その対策をしっかりしておくことが大切だった。	

学校自己評価高校2年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校2年	学年の目標	学年目標の理解と実践	「愛」	1. 目標は教室と廊下に掲示した。学年集会・朝終礼・HRや、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促した。 2. 身近な友人と過ごす際には、もちろんのこと、学年の仲間と共に学校生活を送っていることを意識させ、目標を礎にした問題解決を促した。	A	1. 今後も生徒の様子に合わせ、様々な視点、場面で意識付けていきたい。また、愛されるような人であるように努めさせたい。 2. 思いやりのある言動が見られる点もあるが、まだ十分とは言えない点もあり、根付いた目標がしっかりと実践され実を結ぶまで根気強く生徒に関わっていきたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	方針を明確にし、具体的な体制を実行する	1. 何事にも学年の教員が一丸となって取り組んだ。行事運営、生活指導、風紀指導、学習指導方針など常に共有して実行した。 2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話した。 3. クラス、授業、クラブ、行事等の場面での生徒の情報を積極的に集めて共有した。 4. クラスの状況に合わせ、担任の方針を尊重しつつ、着地点に大きな違いが出ないように指導を続けた。 5. 学校と保護者、保護者間の連携につながる場面を大切にしたい。気になることは連絡し合える体制を作った。	B	1. 今後も継続していきたい。 2. 状況に応じて必要な対策を迅速に行う必要があり、今後も心がけたい。 3. 学びのときの遅刻や日常の指導の共有、課題学習の監督者報告などの記録を継続し、活用を深めたい。 4. 今後も軸がぶれないように注意を払い、成果が出るまで継続していきたい。 5. 努力を続けている。ますます連携を深めるために、細やかなやり取りを続けたい。
	学習指導	高校2年生としての学力の定着と学習意欲の向上	高校2年で必要な学力を身に付け、学習意欲が継続し向上するよう促す	1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とし、漢検のテキスト、英語の自主勉強、数学(1学期)、天声人語の書き写しを行った。英検・漢検の前には集中して対策の時間とした。 2. 放課後や長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒に対応した。大学進学を見据えた科目設定とした。また、A0・推薦対策講座も設定した。 3. 全員受験の実力考査を学期に1回、3学期に希望者実力考査を実施した。第2回実力考査以降は数学、理科、地歴公民の希望者受験も実施した。スタディサポートを1、2学期に実施した。GTECも受験した。結果を振り返り、各自の学習態度について自覚させた。 4. 英検・GTEC、漢検に向けて日常的、継続的に取り組ませた。授業外でも学びのときや進学補習などで学習の機会を設けるなどした。 5. 各学期に生徒面談、夏休みに保護者面談を実施し、個々に応じたきめ細かい指導を行い、モチベーションや持続力が高まるよう働きかけた。 6. ポートフォリオを、日常的にClassiを用いてまとめさせた。学年末には客観的な資料を加えて個人ファイルにまとめさせた。クラスで係を作り、小さな一歩であっても人の前に出て活動する機会を全員に与えた。 7. 土曜日3限の課題学習では、「高校生のための学びの基礎診断」対応の一つとして自学自習型の課題冊子に取り組んだ。自主的な学びの時間とするため、教材の管理や運営についても生徒主体となるような工夫をした。また、同時開講の校内予備校やミカエル国際学校のスクールアシスタントにも積極的な参加を促した。 8. 「志望理由書論述テスト」の全員受験の機会を設けるなどして、意見を述べることに繋がる「書く」学習への取り組みを充実させた。 9. 学習への取り組みの一つとして自習室の利用を促した。	A	1. 「学びのとき」は、遅刻対策にも有効であった。生徒が自主性を持って取り組めるよう適度に支持を与えながら見守っていききたい。 2. 答案返却期間の午後の時間の有効利用など今後も工夫していきたい。 3. 日常の授業の大切さを改めて心がけさせたい。家庭学習時間は依然として不足しているため、受験を意識させて家庭学習時間を増やしていきたい。 4. 日常的、継続的な学習への意識と取り組み方の工夫を今後も促していきたい。 5. 生活面、学習面とも取り組むべき課題の確認の場として今後も有効活用していきたい。 6. ポートフォリオの充実につながる機会を作っていきたい。クラスの係活動を続けたい。また、Classiの利用方法の拡大については早急な対応が必要である。 7. 課題学習の時間を有効に過ごす努力を重ねたい。学習全般で自主的な学習に取り組む生徒を育てられるよう努力、工夫を続けたい。様々な活動に積極的に取り組む姿勢を持ち続けられるようにサポートを続けていきたい。 8. 年間3回のテストを実施した。振り返りを大切にして清書の時間を確保して学校で行うように設定したことで、しっかりと教材を生かして学ぶことができた。今後も継続していきたい。 9. 学習時間の確保を様々な面でサポートしたい。
総合学習	「震災学習」・「進路学習」	震災や進路について考えさせる	1. 講演会、現地訪問などを十分に活用し、理解を深めさせた。「震災」阪神淡路大震災、東日本大震災について個人レポートと共有。ドキュメンタリー番組、講演会、現地訪問及び現地ガイドによる講話。グループで学んだことや感じたこと、考えなどを発表する震災学習発表会など。 「進路」進路ガイダンス、校内オープンキャンパス、校内入試別説明会、進路ライブ、ポートフォリオ、オープンキャンパスレポート、受験日程報告書、志望理由書論述テストなど 2. Blue Earth Projectへの参加を奨励した。 活動例：全国報告会、ハーバーランド umie、西宮ガーデンズでのイベント、沖縄イオンモール、マリOTTホテルでのイベント、講堂での活動報告など	B	1. 「震災」生徒がより主体的に学ぶ場として有効に活用していきたい。学校では人との関りの中で学び、家庭では個人でレポートを仕上げるなど取り組み方にメリハリをつけたことはよかった。修学旅行で現地を訪問できることは深い学びに繋がった。多くの生徒がもっと時間をかけて現地で学びたかったようだ。レポートは形式を自由とし、イラストや写真を用い構成など工夫を凝らしたものが多く提出された。個人の興味関心に応じた課題への取り組み方として継続していきたい。 「進路」学ぶ機会を経る毎に、聞く姿勢、気持ちに良い変化が見られ多くの生徒が進路に関して自分の考えや大まかな方向性を掴むことができた。入試情報に翻弄させられたが、基本を大切にしっかりと進路実現に向けて取り組めるようにサポートしていきたい。 2. 継続して参加、活動している生徒が多数いる。今後も学年として協力していきたい。環境問題への意識を高める取り組みが学年でも出来たらと思う。SDGsへの興味関心を多くの生徒が持てるような働きかけを心がけたい。	

	学年行事	校外学習・学年行事	生きた学びの場とする	<p>1. 秋の東北修学旅行で、東北の自然や歴史、文化について学んだ。現地で震災について学んだ。4泊5日寝食を共にし、友人関係を深めた。基本的なルールを守りつつ、楽しむところでは楽しみ、学ぶべきところではしっかり学ぶことのできた時間であった。</p> <p>※今年度は春の遠足は行事設定なし。</p>	A	<p>1. 主体的な学びの場面として有効であった。実際に現地を訪れること、震災を知る人に直接話を聞くことは大変強く心に残り、思いや考えを深めることに繋がった。現地での時間はもちろんのこと、事前、事後の学習への十分な取り組みができる時間の確保を考えたい。</p> <p>また、今回の旅行では帰神時、飛行機の機材トラブルによる大幅な遅延があったが、生徒、教員、旅行社の旅行団一丸となって対処し、冷静に対応できた。迎える学校関係者、保護者の温かい心遣いに触れた。多くの学びと感謝のある旅となり、卒業までの残りの学校生活に生かしていきたいと思う。</p>
--	------	-----------	------------	--	---	---

学校自己評価高校3年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	目標とする具体的な実践内容	評価	改善策・向上策
	学年目標	学年の目標の理解と実践	「恕」 「志学・志向・タリタクム」	<p>1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、面談、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。</p> <p>2. 「恕(思いやり)」について。 良い友人関係の築き方に関しては、昨年までと同様、折に触れ指導。今年度は、特に、自分の進路が決まってからの言動に配慮が必要だと、働きかける。</p> <p>3. 目標達成、希望進路の実現に向けて、生徒一人一人が努力を続けられるよう、支援する。学習面、具体的には、宿題や小テスト対策、予習復習に、日常的に熱心に取り組ませる。そのうえで、発展的な自主学習、受験勉強にも積極的に取り組むよう、指導する。</p>	1、 3 A 2 B	<p>生徒たちの思いやりのある態度を目にする場面は、年々増えてきたと思う。</p> <p>2について。特に2学期、生徒たちには、「自分の進路が決定してから」の態度に重々心を配って、まだ進路が決定していない生徒のことを思いやった言動を」と、繰り返し求めた。が、生徒たちにとって、実際にはなかなか難しかった。本校においては今後も課題であると思われる。3についての詳細は、「学習習慣」「進路指導」の欄に。</p>
高校3年			「論語」や「聖書」にある言葉を借用して、「思いやり豊かな人になろう。」「学び続けよ。歩き続けよ。いざ、羽ばたかん！」と呼びかけ続け、実践を促す。			
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に、教員間で指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。それらを、年間を通して実践する。	<p>1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が一丸となって取り組む。</p> <p>2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話す。</p> <p>3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。</p> <p>4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。</p> <p>5. 学校と保護者、保護者間の連携を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。</p>	1~3 A 4 B 5 B	<p>1~3について。「学年の教員全員が一丸となって」という目標は、達せられた。</p> <p>4について。基準の確認は怠らなかったが、実際の風紀面等の指導で、クラスによって温度差が生じる場合があった。改めたい。</p> <p>5について。努力を続け、成果が上げられたと思うが、もっと密に連携できればよかったとも思う。</p>
	学習指導	高校3年生としての学力の定着と学習意欲の向上	生徒たちが高校3年で必要な学力を身につけられるようにする。学習意欲が継続し、向上するよう、促す。	<p>1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。</p> <p>2. スケジュール帳の活用を促し、宿題や小テスト対策、予習、復習などの学習習慣を確立させる。</p> <p>3. 丁寧に予習し、授業に熱心に取り組む、復習して理解を深め、知識や考え方を定着させるよう、働きかける。良い授業を提供する。</p> <p>4. 高2に引き続き、現代文と英語の校内予備校を実施する。</p> <p>5. 長期休暇中や平日の放課後、授業のない3学期に進学講習を実施し、入試対策を行う。</p> <p>6. 全員受験の実力考査(英国)を4、5、9月に実施。英国以外の科目は希望者が受験。7、10月には、希望者対象の実力考査も実施。</p> <p>7. 英検・TOEIC、大学受験といった目標に向かって、日常的、継続的な学習に取り組ませる。</p> <p>8. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行い、生徒一人一人のモチベーションや持続力が高まるよう、働きかける。</p>	1 B 2、 3 B 4~8 A	<p>中1時から継続して設定している「学びのとき」は、落ち着いて学校生活を始めるためにも有効であった。5分間ではあるが、集中して取り組む生徒が増えた。一方で、この時間を有効に使えない生徒もまだまだいて、残念だった。</p> <p>しかし、高3になった生徒たちは、以前のその生徒と比べると積極的に学習したと言える。受験生だから当然とはいえ、成長したと思う。教員の側は、良い授業を提供できているか、生徒たちが自ら学びたいようになるような指導が行えているか、いつも振り返りながら、努力、工夫を続けていかなければならないと思う。</p>

進路指導	目標の設定 学力の向上 希望する進路の実現	生徒たちが、自分の適性を知り、目標や進路を定められるよう、働きかける。希望する進路の実現に向けて準備し、努力し続けるよう、促す。	1. 進路説明会 4月に年間スケジュールを保護者と生徒に伝える。6、9月にも実施。また、9、12月にはセンター試験説明会も実施する。 2. 進路調査 3回（4、7、9月）実施。それも踏まえながら、随時、個人面談を行い、生徒一人一人の希望進路や学習状況を把握し、改善点などについて指導する。夏休みには保護者との三者面談を実施する。 3. 実力考査 全員受験の実力考査（英国）を4、5、9月に実施。英国以外の科目は希望者が受験する。7、10月には、希望者対象の実力考査も実施。 4. 校内オープンキャンパス 高校内で、5月に、松蔭大の学科説明会、および、外部大学・短大・専門学校の入試説明会を実施。他に、看護医療系進学ガイダンスも行う。 5. 小論文指導 入試で小論文が必要な生徒の調査をし、学年団で分担、指導する。5月には希望者対象の小論文模試を実施。 6. 指定校推薦決定者への指導 本を数冊読んで、レポートを作成、提出するよう、指導する。理系指定校進学予定者については、特別な補習を実施。	A	中学時から高3を見据えた指導を行ってきた。生徒たちにとって、自分の適性を知ったうえで目標を設定するということはなかなか難しかったようだが、今年度も、予定していた指導内容、様々な働きかけを実践できたと思う。
総合学習	主体的に考え判断し伝える力の養成	意見作文の作成、ディベートの実施、環境についての学習等を通して、生徒たちの、主体的に考え判断し伝える力を養う。そのうえで、他者の意見を尊重できるように働きかける。	生徒の学習活動 1. 文章の書き方のルールを知り、自分の意見を明確に他者に伝える。 2. これまでの総合学習の集大成として、ディベートを通して他者と意見交換を行い、それを踏まえて自分の考えを持つ。 3. 環境問題に関する諸問題について学び、自分の考えを深める。講演会も活用する。	B	「知る」ことは学びの始まりだが、たくさんの生徒たちが今年度も様々なことを知り、関心を持つようになったと思う。卒業後の目標は、「自分のこととして主体的に考え、判断し、行動する」である。
学年行事 学年の取り組み	1. 春の遠足は予定されず。 2. 3学期のプログラム ○必須活動 (1)進学講習 (2)Blue Earth Project (3)探究レポートプログラム (4)SDGs ワークショップ ○有志参加のプログラム 世界史勉強会 TOEIC・TOEFL 講座 ゴルフ体験実習 司書体験	2.は、生徒各自が、自分の置かれた状況、希望に合わせて選択。積極的な取り組みを促す。	2.「必須活動」の(1)は、引き続き受験をする生徒が受講。センター試験、一般入試対策。進路が決定した生徒は、(2)～(4)のいずれかを選択することとした。	A	生徒たちは、必須活動、有志参加のプログラムとも、各自が選択したプログラムに、熱心に取り組んだ。全ての企画が、今後の深い学び、豊かな生活のきっかけとなったのではないかと期待している。

校務分掌

学校自己評価（校務部・教務部）

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	次年度への改善策・向上策
教 務 部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につけさせる。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、定期考査後の補講（学力下位層への指導）などによって、基礎学力の修得に力を入れた。	B	引き続き授業改善に努めると共に、授業についていけない生徒への学力指導について新たに検討していく。 シラバスの様式を新しくし、新指導要領の3観点を意識して、授業づくりに取り組む。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。	英語・数学などで学年に応じ、グレード別クラス、特別選抜クラスを編成した。また、選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。中学の放課後アドバンス塾は月曜日、英検対策講座は水曜日、高校2、3年生対象校内予備校は月曜日と土曜日に実施した。（英語特別クラス在籍生徒は、英検対策講座必修。）また、長期休暇中に目的に応じた講習を設定した。	A	2018年度より6日制となり、様々な講座を設定している。2019年度の反省を踏まえ、各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。 中1より始まるストリーム制について、各ポリシーを意識した適切な指導を行う。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施した。さらに学習意欲の向上をはかるため、スタディー・サポートを積極的に活用したり、英語検定やGTEC、漢字検定などを実施した。中学3年生は全国学力・学習状況調査や基礎学力判定試験も実施した。	A	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、よりよい対応を考えていく必要がある。また、2021年度の中学校指導要領改訂全面実施に向け、適切な評価が出来るよう、各教科での準備を促していく。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習の時間・探究の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。高2修学旅行、中3修学旅行など、校外でのさまざまな体験、事前学習等の機会を設けた。また、主体的な学びについての研究を進めながら、具体的な実践に取り入れてもらうよう促した。	B	総合的な学習の時間の取組において、生徒が主体的な学びを実践できるように各学年で改善を加える。主体的な学びについては引き続き研究を進めながら、具体的な実践を促進していく。特にICTデバイスが導入される学年では、積極的な活用をすすめる。
研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。	職員室の中央掲示版に外部で行われている授業研修を掲示し、教員に各自で学外の研修会に積極的に参加するように促した。	C	主体的な学びを実践した研究授業やICT機器を利用した授業研修を校内での設定を検討する。外部研修会にも積極的に参加することをより奨励する。	
国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせる。	1学期には、ニュージーランドのセント・ピーターズ校との3回目となる春季短期交換留学を行い、各校2名の生徒が参加し、ホームステイや授業で交流を深めた。4月にはセント・ピーターズ校からもう1グループが来校し、ホームステイを行った。1学期にはオハイオ州立大学も来校し、授業で交流した。並行して、夏休みのニュージーランドと韓国への派遣プログラムに向けて事前学習を行い、言語や歴史を勉強した。夏休みのセント・ピーターズ校への生徒派遣は無事に行われたが、信明高校・聖明女子中学校への派遣は諸事情により中止された。2学期には、10月に予定されていた聖明女子中学校の来校も中止になった。3学期には信明高校が来校し、ホームステイや授業を通して親交を深めた。	A	1学期には、韓国の聖明女子中学校の来校を予定している。夏休みのセント・ピーターズ校、信明高校・聖明女子中学校への派遣に向けて事前学習を行い、ニュージーランドと韓国の言語や歴史について理解を深めたい。3学期には信明高校が来校し、ホームステイ等を通して交流を持つ。留学幹旋団体を通しての留学生、セント・ピーターズ校からの交換留学なども随時受け入れる。	
芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2019年は古典芸能鑑賞会を行った。鑑賞行事業者の仲介のもと、上方落語の噺家のお話を聞いた。今年度は学校の講堂で実施した。生徒は熱心に聞き、言葉と喋りや身振りなど、細かな変化による表現の豊かさを実感していた。	A	来年度は音楽鑑賞がテーマの年となり、和太鼓の演奏を依頼している。生徒数をふまえ、来年度は神戸文化ホールの中ホールを利用する。	

	学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上・自主性向上のため、学校行事として、体育祭・球技大会（年3回）・中1キャンプ・中2海洋キャンプ・中3九州修学旅行・高1冬期野外活動実習（スキー）・高2東北修学旅行・冬休みスキーキャンプ等を設定した。その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習なども設定した。（2019年度は天皇即位行事等の影響から春の遠足を設定せず。また、3学期の球技大会は新型コロナウイルスによる休校措置のため実施できず。）	B	行事がたくさんあり、それぞれの行事に生徒も教員もかなり力を入れている。ただし、6日制となったこともあり、年間の各種行事のバランスを検討することが、毎年必要である。また、ストリームの違いによる行事の扱いについて、事前の確認を行う。
--	------	------------	--------------------------------------	---	---	--

学校自己評価（校務部・生徒部）

（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	・担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。 ・頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」の指導を学年中心に積極的に行う。 ・状況に応じて、服装検査を実施する。	B	服装に関してはほぼ守れている。「髪の毛をくくる」に関しては学年ごとに取り組んでいる。校外での指導が今後の課題。
		登下校のマナー	・交通ルール及び公共のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行	・日常的に登下校指導の実施。 ・歩きスマホをしないなど具体的な内容の指導の徹底をする。 ・関係機関と連携しながら補導活動（バス列車補導も含む）を定期的実施。 ・教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	スマホマナー指導を継続して実施。次年度 ICT デバイス導入のためさらにルールを決める。街頭補導については次年度も実施予定。
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	・移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	B	各学年において貴重品の回収、管理の徹底をし、改善が見られた。次年度も今年度同様実施。
		各種講演会の実施	・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 特に、インターネット、SNSの利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。	・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNSなどの不適切な書込については、スクール・デインを通じ、随時指導する。	A	実施時期の変更はあったが例年通り実施。講演ごとに生徒への意識付けはできているので、次年度も継続して実施。
美化指導	美化指導	校内美化・清掃の推進	・トイレ・教室の使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施	・使用マナーを呼びかける。 ・毎日の掃除をきちんと行う。 ・文化祭、体育祭、バザー、球技大会のとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。	A	毎日の清掃活動は徹底できている。体育祭で、イスの足ふきなど、美化委員の仕事が定着し、校内美化に貢献した。
		ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進	・ゴミの減量化 ・ゴミの分別 ・ペットボトルのリサイクル活動の推進	・できるだけゴミを出さないよう呼びかける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 ・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。美化委員はリサイクル処理を、火曜日と金曜日を中心に行う。	B	ゴミの分別、ペットボトルのリサイクルは実施できている。学期末ごとのゴミの減量化が、なかなか徹底しない。
生徒	生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	あいさつ運動の継続。 校外清掃活動の回数の増加。 マナーアップキャンペーンやあしなが奨学募金など外部のボランティア活動への積極的な参加。	B	継続してあいさつ運動をしていく。外部のキャンペーン等にも積極的に参加していく。
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	体育祭運営をよりスムーズに行う。 競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。 文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。 その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	文化祭・体育祭は、より活気のある行事とするために工夫を重ねる。 1学期の球技大会を安全に実施出来るように検討する。

部		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ゴミの分別を確実に行う。 生徒会関係冊子の充実に努める。	A	バザーの寄付先が偏らないように、かつ決定に生徒会役員がより関わられるよう、決定の手順を見直した。短時間で済む用件の場合は昼休みに集まるようにした。
生徒部	安全教育	防火管理体制の整備 自衛消防の努力	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	予告しておこなう訓練と抜き打ちでおこなう訓練とを行い、どちらの場合でもきちんと避難できるようにする(地震発生想定訓練を含める)。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	A	緊張感のある訓練を実施するよう心掛ける。
		校内危機対応意識の啓発 不審者への対応	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	日常生活における防犯意識を持つように働きかける。
		全校生徒(特に自転車通学者)への安全意識の啓発	全校生徒を対象に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、啓発DVDを使用し、登下校時の交通安全意識を高める。	B	自転車に乗る人も乗らない人も、交通安全意識を高めるよう働きかける。
		応急処置の意識の啓発	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	有事に備えて迅速的確に動けるよう意識を高める。
	性教育	実態に応じた性教育の推進	性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を正しく理解する。	性について様々な角度から継続的に学び、性に対する考えを深める機会として、中高一貫の6年間に年1回は性教育を実施する。中学1年・2年・3年生、高校2年生では性教育講演会をおこなう。中学2年生、高校1年・3年生では、保健の授業で取り扱う。また、総合学習や他教科とも連携し、性についての正しい知識の浸透を図る。	A	今年度も各学年で年に1回性教育をおこなうことができた。次年度も講師や内容等、検討していく。

学校自己評価(校務部・宗教部)

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	講話者当番	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る。	・学校行事等の時期も考慮に入れ、副校長や当番学年へ事前連絡をし、担当日を決めてもらった。 ・文化祭・体育祭後に写真部の協力によりメモリアルスライドショーを行った。	A	教員のみならず、職員や松蔭に関わる方々にもお話ししていただけるようにしたい。
		奏楽者当番	学校行事や式典の奏楽者を手配し、日時および聖歌番号を事前連絡する。	・学校行事や式典が決定次第、手配した。 ・できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようになった。	A	奏楽者への事前確認を直前に入れるようにする。
		生徒の参加に関する指導等	定時から落ち着いて礼拝が始められるよう指導する。	・礼拝前に各自、聖歌の準備をし、心を落ち着けて礼拝を始めることができるように指導した。	B	8時30分の講堂着席は、まだ達成できていないが、早めに講堂へ集合し、静かに礼拝を待つという体制は、できてきたように思われる。特に中学生の講堂への集まりはよくなった。
		日常礼拝の見直し	日常礼拝の回数を少しでも現在より増やす。	・かつては毎朝おこなわれていた礼拝のメリット、デメリットを考え、よりよい礼拝の形と回数の検討を重ねた。	B	来年度、日常の学校生活の様子を見つ、礼拝の回数を増やせるように検討を今後も続けて行く。
	特別礼拝の実施	説教者の選定	それぞれの時点でふさわしいと思われる方を選定し、依頼する。	・それぞれ、わかりやすく有意義な話をしていた。	A	幅広い分野の方々に依頼できるよう、普段から情報を集め、関係をつくっておく。
		オルガニスト・聖歌隊手配	活動への参加が決まり次第、正式な依頼をする。	・参加が決まり次第、正式な依頼を行った。使う聖歌等についても早い時期に決めて連絡をした。	A	連絡を密にとって、これからも連携していきたい。
		式次第・式文の作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文を作成した。	・各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	B	印刷作業など、部員で協力していけるようにしたい。
	礼拝形式	様々な形式での礼拝を行う	・1学期・宗教週間の特別礼拝をゴスペル	A	今後も基督教のメッセージを生	

		って行く。	の音楽礼拝の形式で行った。 ・クリスマス特別礼拝を燭火礼拝の形式で行った。安全確保のため、消火用の水を担任に携帯してもらい、事前注意も十分行った上で、中・高、別々に執り行った。		徒によりよい形であらうよう、様々な形式を考え執り行っていきたい。燭火礼拝は、安全に配慮しつつ、来年度は中高合同で行うこととした。
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	朝の礼拝、ヌーンサービス、お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝・震災記念の祈りを行った。	B	これからも生徒へ呼びかけ、参加を促していきたい。新たな企画や改革も行いたい。
宗教部企画の諸行事の実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなるようなプログラムを企画立案し、生徒に提供する。	・1学期と2学期の宗教週間中、放課後に様々な企画を用意し、レオノラチャペルで行った。 ・にじ作業所のパンの販売を実施した。 ・図書館との協賛でブックリサイクルを行った。 ・聖ミカエル教会をはじめ外部の教会バザーの参加者も募り実施した。 ・近隣の教会の牧師を招いてクラス講話を行った。 ・クリスマス礼拝の日の放課後、チャペルにおいて「クリスマス祝会」を企画し、演奏系文化部のミニコンサートを行った。3年目を迎え、4クラブの参加とオルガンレッスン生が奏楽に、放送部が司会を担当。大変好評だった。	A	今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。また、新たな企画についても立案・開拓していきたい。3年目を迎えた「クリスマス祝会」は今後も継続して行っていきたい。
	オルガンレッスン	オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。	・レッスン生を補充するため、夏休み明けにオーディションを開催。中学生1名を合格とした。 ・放課後に行っていたレッスンを昼休みに講堂でも行うことにした。(基本、月2～3回) ・レッスン生のスケジュールが合わず、聖ミカエル教会でのレッスン(基本、学期に2回)が1回の実施となった。 ・レッスン生には、各学期に1～2回程度、礼拝の奏楽奉仕をしてもらった。	B	チャペルのオルガンの購入を本格的に考える。(卒業記念品として費用を積み立て中) 来年度、聖ミカエル教会でのレッスンについて、スケジュールを調整して確実に行って行く。
各奉仕活動の実施	・特別養護老人ホームきしろ荘の訪問 ・震災支援バザーの開催 ・災害支援キャンプの開催	・施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるプログラムを考える。 ・苦しい状況にある人々を忘れない。	・年2回行ってきた喫茶ボランティアは施設が2～3月のボランティア受入の禁止を決定したため、7月の1回の実施となった。 ・12月にクリスマスの飾り付けボランティアを計画したが、参加者が集まらなかった。 ・一般生徒に礼拝やポスター掲示により呼びかけ、募集した。また関係クラブにも参加協力を呼びかけた。 ・「オープンスクール」(7/13)に自然災害支援のためのチャリティ売店を開き、冷たい飲物を販売した。また同時に支援募金の活動も行った。 ・春休みに「長野・災害支援キャンプ」を企画した。	B	・今ある活動は継続しつつ、新しい訪問場所や関わり方を考えていく。 ・長年続いてきた、きしろ荘の喫茶サービスについては、時期を変更して実施できないかを施設と相談しながら検討していく。
体験学習の実施	真生乳児院の育児体験	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるよう、プログラムを考える。	・1・2学期、年2期、計9回の育児体験を土曜日の午後に計画し、8回実施した。(12月の1回は風邪流行のため中止に) ・一般生徒に礼拝やポスター掲示により呼びかけ、募集した。	A	参加生徒は積極的に活動していた。今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していきたい。
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画立案する。	・生徒向けには、清水展人氏を迎えて、LGBT Tに関する講演会を、中高生別々に行い、ミニ感想文を書いてもらった。また事前の礼拝において人権に関するお話を人権主任が行った。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触であった。今後もさまざまな啓発を続けて行きたい。
	啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく	・人権講演会にあわせて講演会の予告を	A	今後もよりよい形で、啓発活動を続け

		く伝えていく。	『チャペルニュース』に掲載した。 また、生徒のミニ感想文を機関誌『青谷』に載せ、紹介した。		て行きたい。
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。	教職員人権研修会として2学期始業式前に、日本LGBT協会・代表理事の清水展人氏を迎えて講演会を行った。	A	有意義な研修ができた。今後もさまざまな形で、啓発活動が続けて行きたい。
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	・キリスト教に対する興味や関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりに共感することができるようなプログラムを企画・立案する。	・夏休みに神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画し、中高校生10名が参加した。 ・12月に行われた、小学生対象の「クリスマスの集い」で核廃絶の署名活動を有志の高校生2名が行った。全学年にも署名用紙を配布し、署名を集めた。	A	少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動を積極的に行い、生徒の参加を促していきたい。
啓発文書の発行	『青谷』の発行	キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。	・さまざまな方々に広く原稿依頼を行った。 ・生徒の感想なども多く取り入れた。	A	概ねスムーズに原稿が集まった。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう、今後も務めていきたい。
	『チャペルニュース』の発行	定期的に発行し、宗教部の行事や活動を報告する。	活動写真などもおろませ、合計9回、発行した。	A	活動報告だけではなく、広く様々な記事を掲載し、親しみやすい刊行物としていきたい。
	「聖句」の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。	・年間聖句および、月1回の発行を目標に書道部に依頼し、合計11回、各教室と廊下、体育館、事務室前、バス道掲示板等に掲示した。 ・聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。	A	今後も適切な聖句を選び、生徒に紹介していきたい。
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えていく。	・東日本大震災や九州・大分熊本地震の被災地支援、九州北部豪雨水害の被災地支援、西日本豪雨水害の被災地支援など、さまざまな自然災害の被災地に献金をおこなった。	A	必要とされる所に献金、人的支援をこれからも続けて行っていきたい。

学校自己評価（校務部・総務部）

（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックした。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。個人情報流出防止に細心の注意をした。	B	事務室から受け取った写しを整理する。住所録作成時のミスがないようにダブルチェック体制をとる。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数等を把握する。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	A	教室の机等を定期的に点検して、発注する。複数年かけて全学年分を入れ替えることをめざして導入計画を立てる。多数の机を移動する行事が終了した直後に教室の点検をする。
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることから（部活動・補修など）を把握する。長期休暇中の教室利用を調整する。	通常利用一覧表と、月別の放課後教室利用一覧を掲示し、使用者に記入してもらった。利用頻度が高い場所については、校内イントラネットを活用して予約が重ならないようにした。特に電子黒板が設置されている教室の空き状況一覧を作成し、授業で使用できるようにした。長期休暇中については、事前に教室使用希望調査をおこない、調整した。	B	通常活動場所一覧の更新を定期的におこなう。長期休暇中の工事予定を勘案し、利用表を作成する。校内イントラネットによる予約と重なりがでないようにする。クラス数減少に伴い、長期にわたり使用頻度が低くなっている教室等の有効利用を検討する。
	施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、施設管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	B	校内イントラネット及び会議録によって、なるべく早い時期に各部署の利用予定を把握する。	
	不良箇所の補修	事務部・施設管理係との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼してもらった。	B	定期的に、校内の点検・見回りをする。各学年と連携し、早めに状況を把握する。	

情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時おこなう。 無線Lan環境を整備する。 ICT化について将来構想を検討する。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。 教職員PCの更新をおこなった。 ICT小委員会と連携し、ICT関連の将来計画を検討した。 生徒用及び教職員用のiPadを購入した。	B	ネットワークのセキュリティ面で日常的に検証をおこなう。 数年先を見越した新たなシステムの計画を立てる。 デジタル機器の増加、システムの変更に伴い、係の体制を検討していく。
管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	B	定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入することで、補充遅れをなくすとともに、コストダウンを心がける。
	事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫するとともに、印刷ミスした紙等の再利用をおこなう。 ICTの活用により印刷の削減を図る。 その他、ゴミの削減に努める。
視聴覚機材	視聴覚機材の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	電子黒板のメンテナンスをおこなった。 必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。 不調の書画カメラの交換を取りやめ、タブレットの活用等、別ツールへの移行をはかった。	A	視聴覚室の整頓を徹底する。 ICT機材の導入の将来計画を検討する。 講堂の音響関係のメンテナンス計画を立てる。
広報	ホームページ(学校の広報)	分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。	A	学校活動の活発さをより効果的に発信する対策・方法を工夫していく。 公道に面した場所の掲示板を活用する。
	ハンドブック(校内のルール・約束事の周知)	訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成(訂正)を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。
	学校報(一年間の学校の記録)	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真等を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。 VHSテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。	A	古い資料の整理を進め、系統的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。
総務・渉外	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者と連絡を密に取るように努めた。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	施設管理職員・事務部と連携をはかり、仕事を円滑に進めるよう努める。
	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	A	設営作業がスムーズに行くように式典前の施設利用に気を配る。
	バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTAや同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすること等を心がけた。 食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示について、漏れがないように、チェック体制を整えた。	B	食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示漏れがないようにするために、よりよい方法を検討していく。 ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。
	緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	各学期にテストメールを配信した。 必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	A	配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定をお願いした。

学校自己評価(校務部・進路指導部)

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路	進路	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	卒業生・外部講師による講話や高3生徒による進路ライブなど、生徒に考えさせる機会を作った。	B	総合の時間の柔軟性のある使い方を検討する。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。
		進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1総合学習の時間をはじめ、進路学習を系統的に行った。中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行っている。	A	大学入試制度改革に対応した指導のあり方を検討する。
			実力考査の定点観測を行い、進学指導に生かす。	実力考査等における、同一学年の推移及び過去データとの比較を行い、定点観測結果を学校内で共有した。なお、高校生のための学びの基礎診断として高1・高2で年間2回のアセスメントを実施した。	B	学校行事と模試日程の関係から、効果的な定点観測が難しい状況であり、アセスメントの整理を図る必要がある。

指導部	指導部		実力考査の計画的な実施。	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝えた。	A	採用した実力考査が本校の現状に合っているか、常に点検していく。
			大学入試制度改革への対応。	情報収集に努め、生徒保護者集会で説明した。イントラネットを用いて教員への情報提供を行った。さらにeポートフォリオの運用を開始した。	A	引き続き情報収集と情報提供に努める。
		キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1・高2でBlue Earth Project チームYの活動が本格化し、多くの生徒が校外で活動した。	A	チームYの活動と高3の活動をどのように関連づけるか検討が必要である。
			社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気付きの機会を与える。	Blue Earth Project は今年も充実した内容を実施し、生徒達は前向きに活動した。Blue Earth Project は、特色ある教育活動として、全国に広がっている。	A	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も継続していけるように、少しでも多くの教員に指導スキルを継承できるようにする。

学校自己評価（校務部・入試広報室）

(A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入試広報室	生徒募集 関連事項	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	食堂利用、パンの販売。 低学年の方には、図書館で在校生とのレクレーションを企画した。	B	他校の説明会・イベントと日程が重複しないよう注意する。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、本校の教育内容を的確に説明した。毎回、紹介する内容がかわるようにした。	B	2回目、担任教員・保護者の方・卒業生の話。3回目、前 啓明学院 校長先生の講演会。
		授業見学会	授業の様子を見ていただく。	オンライン英会話など、松蔭独自の授業をご見学いただくようにした。	B	HPなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を感じてもらおう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうことが一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	A	演劇部を中心に、多くの生徒の活動を紹介した。 小学生だけでなく中学生にも参加してもらおう。
		入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場で、松蔭での学校生活を知っていただくために説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていただき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。	B	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。
		外部説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月に宝塚・加古川・西神南・阪神西宮・三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	宝塚、台風のため中止。加古川はご来場がなかったため他の地域も検討。可能な範囲で土・日曜日に実施する。
		校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置。 ご希望の方には施設見学も行った。 願書も受け付けた。	B	この時期には併願校をご検討の方がいらっしゃるのにつづけていきたい。
		学外のブース式説明会	主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。	疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。兵庫県の女子校による「女子教育セッション」を学校共催イベントとして企画・実施した。8月の私学フェスティバルには生徒も出演した。	B	保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」が見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減ってきている。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	3月に「神戸東地区4校合同説明会（神戸海星・甲南女子・親和・松蔭）」を実施した。	B	特に他校との合同説明会では、松蔭の特色が際立つプレゼンテーションを目指した。
		E L S 講座	2ストリーム制の設置に伴い、校内で小学生対象の英語講座を設置した。	2つのレベルを設定し、幅広くご参加いただけるようにした。	B	英語入試を実施することになり、「松蔭＝英語」のイメージを固定させたい。講座の実施をもっと知っていただく方法を考える。

		個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	B	個別見学の申し込みをしやすくするよう、HPに申し込みフォームをつくる。
		プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもっていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	英語のプレテストも実施。ご参加人数を増やす対策が必要。
		高校入試説明会 高校入学相談会	高校専願入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	制度を詳しく説明した。特に途中入学への不安について。在校生と話をする機会をより多く設け、直接、細かなご質問をしていただけるようにした。	B	できる限り在校生とお話ししていただく機会をつくる。
		学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	B	グローバルストリーム用のリーフレット、中学生に配布するための高校入試ガイドをリニューアルした。
情報提供 関連事項		DVD など視聴覚物品	在校生の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作成を依頼した。	B	なるべく多くの方に配布する。
		中学受験雑誌記事など	松蔭での教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	B	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌記事掲載など	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	教育活動の紹介手段の1つとして掲載した。	B	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌広告・看板	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	2系統のバス、阪神電車、山陽電車北神急行に広告を出した。	B	より効果的な広告を検討する。
		学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	入試関連情報・イベント日程などを掲載した。	B	外部説明会など細かく情報を出した。レイアウトを変更し、見やすくなった。
		ノベルティグッズ等	小学生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	巾着袋、ファイルを卒業生にデザインしてもらった。	A	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
		塾訪問	塾の先生方との関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらおう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
		中学校訪問	松蔭が高校入試を実施していることを多くの先生方に知っていただく。	高校入試用にチラシ、ガイドを作成。女子生徒への配布を依頼。	B	より多くの学校に配布を依頼し、ご来校につなげたい。
		公立中学校の先生方対象、私立高校説明会	松蔭の高校入試の概要を知っていただく。	10月に神戸市、加印地区の説明会に参加した。	B	他の地区でも説明会があれば積極的に参加したい。その後の中学校訪問につなげたい。
		学外教育機関への広報	塾対象説明会	教育内容を説明し、通塾生、その保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月に実施。ストリーム制、高校入試について説明。	B
		模擬試験会場	受験生・保護者の方に松蔭を知っていただく機会とする。	試験実施中に説明会を実施。	B	プレテスト同様、入試本番に近い形で受験できるようにした。

学校自己評価（校務部・読書運動委員会）

（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動（第50回） 読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> 読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2019年度は「新旧」。 テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。 生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 優秀作を図書館に展示。 国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度も、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。 感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を11月アセンブリーで表彰。 各学年の最優秀作品は、第47回兵庫県 	A	<p>今年度のテーマは「新旧」。年号が変わり、松蔭中高も変化の時を迎えていて、古いことを振り返ったり新しいことに思いを致したりするいい機会だと捉えた。</p> <p>充実した推薦図書リストが完成し、どの学年も生徒が興味を持てるような課題を設定した。</p> <p>例年どおり、教員の思いに応じて、創意工夫をこらして積極的に課題に取り組んだ生徒が多く見られた。一方で、読書に興味を持っていない生徒もやはりいる。一人でも多くの生徒が読書好きになるように、今後も継続して教職員の協力を求めたい。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 個人の嗜好に合わせた情報の発信の可能性も探りたい。

			私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：入選1作、佳作2作。高校：入選1作、佳作2作。 ・第50回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。		・読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。 ・読書運動冊子の活用法の検討。
		ゴールドカード・プラチナカードの表彰 その他	・この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを、中学時にゴールドカードを取得して、さらに高校になって年間50冊以上図書館の本を読んだ生徒にプラチナカードを授与。2月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー）。	A	たくさんの本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取り組みは、今後も継続。
	生徒が図書館を有効に利用できるようにする。 生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。	総合学習等の調べ学習の際の利用。 授業での利用。	・各学年総合学習等のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。必要時には、司書が説明。 ・中1国語力の授業の一環として「絵本の読み聞かせ」を行った。 ・授業での利用：中1理科「化石」、中2国語「終戦間近の生活」「海外の方に伝える日本文化」「年輩の方へ伝える若者文化」、中2国語力「旅行ガイド」、中3国語力「長崎」、高2美術「クリスマス」。生徒全員に行き渡るよう、市立図書館からも借り出して資料を提供した。 ・要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前を行った。 ・夏期講習高1「世界史」において、映画上映（館内のみ）。 ・図書や資料の見つけ方、調べ方、マナーも含めてプリントにし、配布した。積極的な活用に役立ててほしい。 ・自習時間の利用にも対応した。	B	各学年、各教科とのさらに密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。 教員側の意識をさらに高めることが課題。多くの教員が図書館に頻繁に来て、本を使った授業の工夫も行ってくれるよう、促したい。
		図書館利用のルールを理解、遵守。	・新入生、転入生に対して、オリエンテーションを行った。 ・日常的な利用に際して、きめ細かい指導を行った。	A	時間不足気味なので、自習時間等、別の機会を見つけて補う。
		広報等	・図書館情報誌「はと時計」を発行。本の紹介をはじめ、各種イベントの案内をした。 ・絵本ボランティア、カボチャのランタンづくり、レジンのチャーム作り、読書みくじ、小学生対象の兵庫県学校図書館スタンプラリー（夏休み宿題お助け講座）等の各種イベントを企画し、実施した。今後も実施していく予定。 ・高3生3学期有志参加プログラムの一環として、司書体験活動を実施した。 ・チャリティブックバザーの実施。宗教週間の活動の一環として、不要になった本を持参してもらい、売却した利益を寄付。 ・「筒井台中学校2年生トライやる・ウィーク」に協力して、司書体験を支援、指導した。	A	・「はと時計」のますますの充実を目指す。 ・積極的に楽しく活動できる機会を、さらに作りたい。
選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	・係による定期的な選書を行った。 ・リクエスト本について、随時審議した。	A	より多くの教職員からのリクエストが望まれる。さらに幅広い選書を目指す。